

# 重茂半島の豊かな自然を体験するエコツアー

平成30年地域政策研究センター 地域協働研究【ステージⅡ】 採択課題

課題名：重茂半島の海と陸を経由するエコツアー・コースの実装

研究代表者：総合政策学部 教授 渋谷晃太郎

課題提案者：野崎産業 野崎 拓司

研究メンバー：NPO法人 ASIA Environmental Alliance (AEA) 平塚 明 菅 信利

技術キーワード：SDGs 持続可能な観光 みちのく潮風トレイル 三陸ジオパーク

## ▼研究の概要（背景・目標）

宮古市重茂半島における過去の研究成果を生かし、海の道、山の道から成るエコツアーコースを設定し、モデルツアー等を実施して、ツアーの実装をする

## ▼研究の内容（方法・経過）

- 1.重茂半島に「山の道」と「海の道」を設定し、モニターツアーを行う。
- 2.19号台風の被害、復旧状況調査
- 3.多言語によるwebサイトの作成

## ▼研究の成果（結論・考察）

1. 海の道2ツアー：2018年8月18日漁船を使ったモニタリングツアーを実施。参加者12名。宮古市リアスハーバー宮古から重茂半島先端、鯧ヶ崎沖から山田漁港までの区間を往復。片道3時間半を要する長時間ツアーとなった。
2. 山の道ツアー：2018年8月19日、宮古市姉吉漁港から鯧ヶ崎灯台区間を往路は漁船、復路は徒歩で往復した。下船後は徒歩で鯧ヶ崎灯台を経て姉吉漁港に戻った。
3. 2年目は、一般公募によるツアーの実施を試みたが、度重なる台風、特に19号台風による甚大な被害と新型コロナウイルスによる移動制限などがあり実施できなかった。
4. 多言語によるHPを作成した。



海の道



山の道



開伊岬



本州最東端鯧ヶ崎灯台



山の道 鯧ヶ崎灯台の道



19号台風の被害

## ▼おわりに（まとめ・今後の展開）

2019年10月の台風19号による被害は甚大で復旧には長期間を要する可能性があること、折からの新型コロナウイルスのため、インバウンドが全く期待できない状況にあり、三陸一帯の観光が持ち直すには数年を要するものと思われる。なかでも重茂半島はアクセスなど他よりも条件が厳しかったが、復興関連道路の整備や、民宿復活などの動きも出てきていることから、豊かな自然資源を生かした観光による地域振興が復活する時に本研究による成果が活用されることが期待される。